大阪公立大学　大学史資料室
NEWS LETTER No.12
2024年9月30日

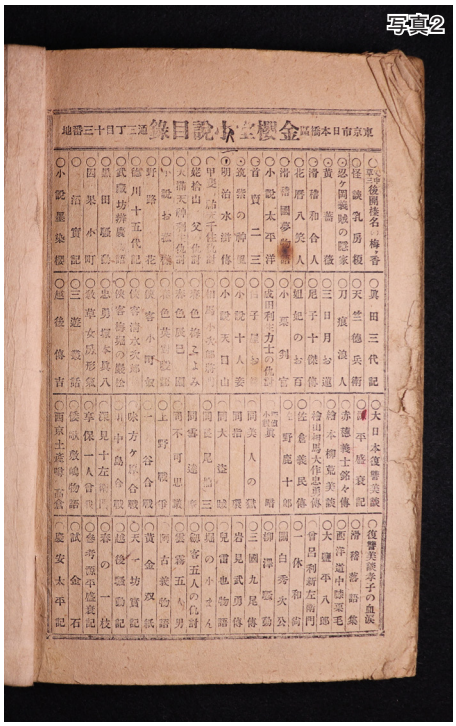


写真１：『明和奇聞／因果小町』表紙（左）と貸本屋帳票（右）。　写真２：『明和奇聞／因果小町』巻末広告。

100年前？の落書きがある講談本 ―吉沢コレクションから―

大学の知を発掘！ 034

吉沢コレクションは、大阪公立大学文学研究科が2021年に受贈した、数万点の演芸資料コレクションである。寄贈者の講談研究者・吉沢英明（1936～）氏は、講談本（話芸である講談を活字化した本）を中心に、芝居や映画のチラシやポスター、チケット半券に至るまで、およそ芸能というジャンルに含まれるあらゆる資料を、半世紀以上かけて収集した。

今回は約一万冊の講談本の中から、吉沢コレクションならではの数冊を紹介する。「ならでは」というのは、貸本屋の帳票が貼られていたり、落書きがあったり、表紙絵や口絵が破り取られていたり…と、多くの人の手に取られ、読まれた形跡が残されている本たちである。

古い本を収集する場合、通常は状態のよいものを選んで買おうとするだろう。図書館でも、多くの人の手に取られ、ボロボロになった本をわざわざ収蔵するということは、特別なコレクションでない限りはあまりない。落書きや汚れ、経年劣化は、図書館の本として貸出されるうちにそうなったものがほとんどだろう。しかし吉沢氏は講談研究のために、状態にかかわらず集められる限りの講談本を収集したため、通常は図書館に収蔵されないような状態の本も多い。それらから、明治から昭和の人々の講談本の受容形態がわかる。

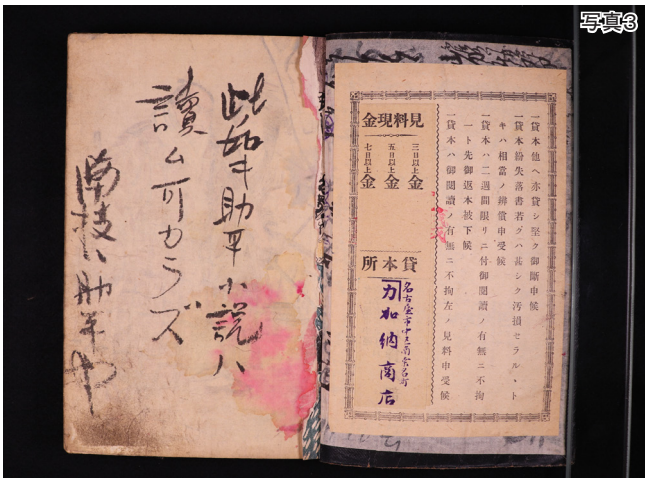
最初は『明和奇聞／因果小町』（邑井吉瓶（むらいきっぺい）講述・佃與次郎（つくだよじろう）速記　東京・金櫻堂 明治23年初版・同34年第10版）（写真１）。本には貸本屋のカバーがかけられ、その内側に「見料」と書かれた帳票が貼られている。「見料」は貸出料金で、一日以上七日まで一銭。三十日たったら一度返すこと、又貸しはお断りなどの注意書きもあり、店名は「梅花堂」とある（所在地未詳）。その下には貸出日付が毛筆で書かれている。

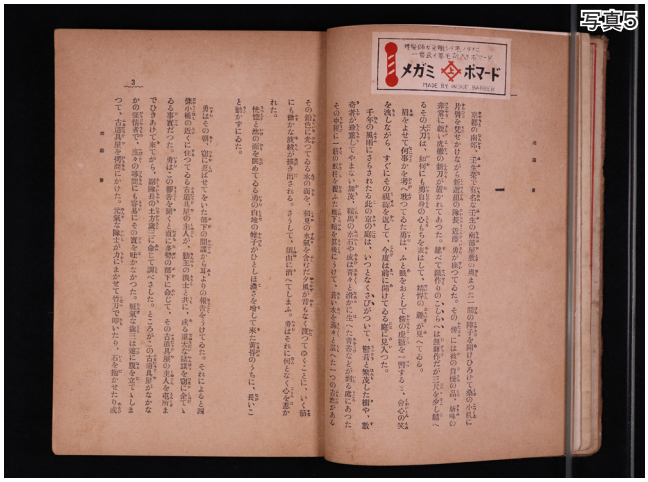
講談本は主に貸本屋で貸し出されて読まれた。芥川龍之介は、少年の頃、貸本屋で多くの講談本を読んだことを回想し「僕に文芸を教へたものは大学でもなければ図書館でもない。正にあの蕭条（しょうじょう）たる貸本屋である。僕は其処に並んでゐた本から、恐らくは一生受用しても尽きることを知らぬ教訓を学んだ」（「僻見」大正13年4月）と述べている。（蕭条たる：ものさびしい）

この本でもう一つ面白いのが巻末広告である（写真２）。「金櫻堂小説目録」の下に並ぶ書名は講談本。つまりこ

大阪公立大学・高専基金へのご寄附のお願い
お申込み時に「特定プロジェクトのために：⑨－３」を選択してください。
（⑨－３：１号館ミュージアム構想のために）
【お問い合わせ】渉外企画課　TEL: 06-6605-3415
https://www.omu.ac.jp/fund/

編集発行
大阪公立大学　大学史資料室
協創研究センター・大学史編纂研究所
杉本キャンパス学術情報総合センター６階（大学史資料室）
Tel：06-6605-3371　E-mail：gr-gakj-archives@omu.ac.jp





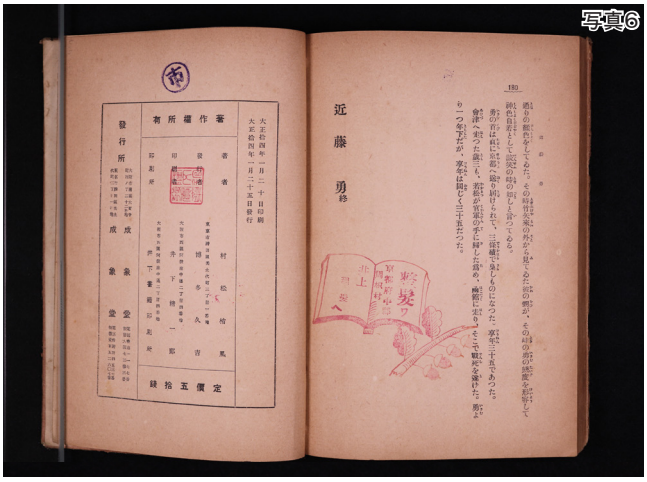


写真３：『小泉半之亟』貸本屋帳票（右）と落書き（左）。　写真４～６：『創作講談 近藤勇』写真４：貸本屋帳票（右）と扉（左）の「女神」朱印。写真５：本文に貼られたポマードの広告。　写真６：奥付（左）と井上理髪店の広告スタンプ（右）。

の当時、講談本は「小説」と認識されていた。坪内逍遥が「小説神髄」（明治18年）を発表して江戸時代に流行した勧善懲悪の物語を否定し、近代の「小説」概念が産声をあげた後も、江戸時代の物語をほぼそのまま受け継いだ講談本が「小説」と認識されていたわけである。

そのことは、『小泉半之亟』（陽春亭南枝口演・若松千代二速記　田村熙春堂　明治35年〔表紙欠で出版社・刊行年は奥付によるが、奥付には「蓮華往生」とあり、書名が異なる事情は不明〕）の落書きからもわかる（写真３）。右側は「名古屋市中区南桑名町　加納商店」（『角川日本地名大辞典 23 愛知県』（1989）によれば、この住所表記は明治41年から、昭和19・20年頃の一時期を除き昭和41年まで）の貸本帳票があり、表紙は破り取られ、左側に「此ノ如キ助平小説ハ読ム可カラズ　南枝ハ助平也」と毛筆で落書きがある。いつ書かれたのかは不明だが、この読者もこの講談本を「小説」と認識している。なお陽春亭南枝という講談師が実在したかは不明で、講談本には架空の講談師名を掲げる場合もある。

最後に『創作講談 近藤勇』（村松梢風著　成象堂　大正14年）。これは講談師ではなく小説家が書いた読物。この本にも貸本屋の帳票（写真４）があるが、店名が消され「京都府中郡周枳村　井上理髪店」と朱印がある。理髪店が貸本業もしていたのかもしれないが、料金まで消されており、有料で貸出していたわけではなさそうだ。貸本屋から不要の本を譲り受けて、理髪店の待ち時間に読まれていた可能性もある。左ページのタイトル下の「女神」の朱印は、本書２ページに広告が貼られている「メガミポマード」（写真５）というこの理髪店の商品と関連しているのだろう。本文最終ページにも、井上理髪店の広告スタンプが押されている（写真６）。

このように見てくると、講談本は現在の漫画雑誌やコミック本のような存在だったのかもしれない。

（文学研究科　奥野久美子）

資料室だより

◆大学史資料室では「大阪公立大学 大学史資料室　NEWS LETTER」を発行しています。大阪公立大学の貴重な学術資料や大学の歴史を紹介します。◆この「NEWS LETTER」は、大阪市立大学「140周年展＋大学史資料館（大学博物館）設立準備 NEWS LETTER」の後継紙であり、「大学の知を発掘！」の番号を引き継いでいます。両紙とも大阪公立大学 大学史資料室のホームページ、図書館ホームページの機関リポジトリで公開しています。

大学史資料室からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。「NEWS LETTER」で紹介したいと考えています。

→杉本キャンパス学術情報総合センター６階　大学史資料室
Tel：06-6605-3371